

2013年度森泰吉郎記念研究振興基金「研究育成費」報告書

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程

竹内沙於

1. 研究課題名

「日本人ムスリマコミュニティの形成過程に関する研究——ライフストーリーの分析を通じて」

2. 研究概要

本研究は、1990年代以降のイスラームに入信する日本人女性が急増している現象に着目し、文献研究とフィールドワーク調査をもとに、信仰を基礎とした日本人ムスリマコミュニティの形成過程を明らかにするものである。なお、フィールドワーク調査では、日本人ムスリマの人口が最も集中する都市のひとつである名古屋を中心に、計31名の日本人ムスリマに対してインタビューを行った。

3. 研究内容

日本人ムスリマを扱った既存の研究では、結婚を契機として入信した女性のみが注目されてきた。しかし、近年、結婚とは関係なく、より自発的な動機から入信する女性も増えてきている。そこで、本研究では、未婚の女性も含め、イスラームに入信した彼女たちのライフストーリーを描き出すことで、「日本人」としての側面と「ムスリマ」としての側面を矛盾せず併せ持つ彼女たちの宗教的アイデンティティを照射した。更に、イスラーム史におけるコミュニティの原型について論じた上で、日本人ムスリマたちのライフストーリーの分析を通じて、日本人ムスリマコミュニティの形成過程と、それを促した内的要因を明らかにした。

本研究の調査対象者である日本人ムスリマたちは、個々人の宗教的アイデンティティの獲得と同時に、信仰を共有する日本人ムスリマ同士の横の連帯を強化し、日本人ムスリマコミュニティなるものを形成してきた。彼女たちが、非イスラーム国である日本で「ムスリマ」として、そして——外国人ムスリマとも異なる——、「日本人」として生活する中で、コミュニティが必要とされたのである。そして現在、そのコミュニティは、構成員である日本人ムスリマたちの意識の変容とSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及によって、新たな展開を迎えようとしている。

これらは、他者——外国人ムスリム、あるいはムスリマや日本社会——との対話を通じて、生まれてきたものである。日本人ムスリマたちの他者との対話の試みと日本人としてのムスリマ像の模索は、「イスラームの排他性・閉鎖性」を巡る議論を覆すのみならず、より積極的で建設的な「協調的・開放的なイスラーム」の実践に他ならないのである。